

14章 Googleを活用した英作文指導

14.1 はじめに

- ・英作文を添削するにあたって、辞書の情報だけでは不十分である
- ・ウェブをコーパスと見立て、Googleの検索機能を使った英文作成と英文添削の方法

14.2 検索の基本

- ・そのまま検索するだけでは思い通りの結果は得られない
- ・検索演算子と呼ばれるコマンドを使った検索方法を身につけることが必要

(<https://support.google.com/websearch/answer/2466433?hl=ja>)

14.2.1 検索語句の入力と検索結果

- ・検索結果のヒット件数で単語の単数/複数形のどちらがより一般的か調べる事ができる

14.2.2 フレーズ検索

- ・2語以上からなる熟語・慣用表現を検索する際はダブルクォーテーションマークを使うこと

Ex.)“make it possible to”

14.2.3 サイト検索

- ・英語の質を保証するため検索サイトを制限する必要がある
- ・演算子「site:」でサイトやドメインを限定した検索が可能

Ex.) “make it possible to” site:nytimes.com

国別ドメイン

uk	英国
au	オーストラリア
ca	カナダ
nz	ニュージーランド
jp	日本

機関別ドメイン

ac.uk	英国教育機関
edu	米国教育機関
gov	米国政府機関
com	商業組織
net	ネットワーク
org	非営利団体

14.2.4 OR/パイプ検索

- ・共起関係を調べるにあたって、いくつかの候補の中から適切なものを確認することができる
- パイプ: 検索の際に使う縦棒 (|) のこと

Ex.)

“the earth travels (in OR on OR at OR with OR around) the sun”

“the earth travels in | on | at | with | around | the sun”

14.2.5 ワイルドカード/アスタリスク検索

- ・任意の単語の代わりに*を使って検索することができる

Ex.) 詳細な分析を通しての「詳細」が思い浮かばない時、“through a * analysis”と検索することでdetailedやcloseなどの語を得られる

14.2.6 Google Fight

- ・Google Fightでは、比較したい語や句の検索ヒット件数を瞬時に比べることができる

14.3 検索の具体例

- ・ワイルドカードで候補の語を見つける→検索でヒット件数を比べる、またはOR検索を使って候補を絞り込む
- ・動詞を検索したい時は to * で検索すると可能性が高まる